

デジタルトランスフォーメーションの 過程でレガシーシステムを 刷新するには

マスターデータ管理が
ビジネス刷新のカギを握る理由



「ビジネスファースト」のアプローチで 変革を実現

デジタル経済の現代では、CIOに求められる役割に変化が生じています。CIOを含む現代のITリーダーは、単にITインフラストラクチャの実装/監視/保守を担当するだけでなく、ビジネスへの影響や業績も考慮しなければなりません。つまり、事業を優先する「ビジネスファースト」のアプローチが必要だということです。これは、社内のレガシーシステムに対するアプローチにも当てはまります。

多くのCIOとエグゼクティブは、この点を認識しています。**ガートナー社の調査**では、ビジネスリーダーの3分の2は、競争力を維持するためにデジタル化を推進する必要があると回答しています。先進的なCIOは、俯瞰的なビジネス視点でエンタープライズシステム、アプリケーション、データを捉える必要があると考えています。その意味でも、レガシーシステムの置き換えは急務なのです。実際、レガシーシステムを置き換えた方が、収益の増加と運用コストの低減により財務業績が向上する可能性が高くなります。

レガシーシステムを置き換えるメリット：

- **収益増加**: 売上増加、返品率の削減、オムニチャネルエクスペリエンスの最適化を実現
- **業務効率化**: 重複データを削除し、エラーを招きやすい業務プロセスを排除
- **Time-to-Value (成果が表れるまでの時間) の短縮**: 新商品を素早く市場に投入し製品ライフサイクルを効率化
- **協力体制の強化**: 部署間の壁を排除し、パートナーとのスムーズな連携を実現
- **リスク軽減**: 法規制や産業規格へのコンプライアンスを強化

主なメリット

- 収益増加
- 業務効率の改善
- ITアジリティの向上/リスク軽減
- サプライチェーンを簡素化&コスト削減
- グローバルビジネスの要件に対応

レガシーシステムの代償

時代遅れの技術を基盤にしたレガシーシステムは、その運用管理を担当するCIOやリーダーの業務効率を下げる原因となります。厳格な開発/実装要件、機能不足、高額で複雑なアップグレード、管理が難しいプログラムなどのために、CIOの負担が増えてしまうのです。

ほとんどのレガシーシステムは、自動化を目的に設計されていますが、柔軟性やユーザビリティは考慮されていません。原材料、製品ライフサイクル管理、作業指示書、在庫、サービスデリバリーなどの追跡はできても、現代のビジネスに不可欠なフロントオフィス業務（営業、マーケティング、Eコマース、文書化、サポートなど）をスムーズに統合し、向上する機能に著しく欠けています。

ビジネスの刷新

製造、流通、リテールファイナンス、サプライチェーンなど、事業全体の業務効率化を進めることにより、事業目標に沿って技術を活用し、データを戦略的な資産として管理できるようになります。ビジネスユーザーがデータを1回入力すれば、部署や部門を問わず誰でもアクセスできるため、信頼性の高い正確なデータを活用できるのです。データを介して複数のシステムを連結することで、部署間の関係性を明確化するとともに、連携を強化することができます。また、フロントエンドからバックエンドまで、全社レベルで業務効率を改善するのにも役立ちます。

企業は、データの関係性や依存関係を明確に把握しておく必要があります。例えば、新商品を市場に投入する際には、公式ウェブサイト、実店舗、サプライヤーやパートナーなどにデータを送信することになります。各ステークホルダーへのデータの流通を一元管理し、どのようにデータが発行/共有/使用されているかを明確に把握することで、データの管理/ガバナンス/品質を強化し、的確な意思決定が可能になります。

ビジネス刷新の秘訣はレガシーデータ管理

現代のグローバル経済では、企業はデータを最も重要な資産と捉え、データ活用を通してビジネスニーズと顧客の期待に応える必要があります。レガシーシステムを置き換え、デジタルトランスフォーメーションを推進するポイントは、ITエコシステムに不可欠な基幹データを一元管理することです。

マスターデータ管理を活用し、製品、顧客、サプライヤー、ロケーション、アセットなどの共通データを一元管理すれば、全社で使用できる信頼性の高い単一の情報源を構築し、顧客やパートナー、一般消費者にも一貫性のある正確で詳細な情報を提供できるようになります。複数のシステムを一気に統合しようとする代わりに、マーケティング/アセット/製造関連その他のデータ品質を向上し、事業目標を達成することができます。また、データの収集/管理/流通に関する古いプロセスを排除し、重複データを削除して、データを標準化することで、データ品質を改善します。

レガシーシステムの問題点

- データの品質や信頼性
- 製品/顧客/サプライヤーなどの情報が様々な部署、部門に分散
- 様々なデータドメインにおける規制、コンプライアンス要件、レポート要件が厳格化
- 部署間の連携が取れない
- 高額なインフラストラクチャ&システム停止のリスク
- 保守&アップグレード

ITの刷新を要する市場動向

- 業務プロセスのデジタル化/統合/効率化
- パーソナライズされたエクスペリエンス
- データドリブン型キャンペーン
- 顧客に合わせた商品提供
- サブスクリプションサービス
- サプライチェーンの自動化

基幹データのマスターデータ管理により、様々なシステムが向上

- Eコマース
- POS
- ERP
- CRM
- 倉庫
- 在庫管理
- マーケティング自動化

段階的な変革

データを一元管理して、レガシーシステムを移行するには、どこから着手すればいいのでしょうか?多くの企業は、製品、顧客、サプライヤー、アセット、ロケーションなどのデータを一元化して表示する、拡張性の高いプラットフォームを活用して段階的に変革を進めています。こうした企業は、マスターデータ管理 (MDM) プラットフォームを採用する傾向があります。基幹データの管理/集約/同期/エンリッチメントを行うための機能が充実しており、拡張性も優れているからです。

プラットフォームを活用して段階的に変革を進めることで、真のデジタルトランスフォーメーションを達成し、ビジネスリーダーに必要な柔軟性やコンフィギュラビリティ (設定可能性) を実現できます。不正確または不完全なデータによるリスクを削減し、データ品質を改善してエンドユーザーの満足度を高めると同時に、最終的には全社のシステムをアップグレードできます。

拡張性の高いプラットフォームのメリット

- データのサイロ化を解消し、データを統合
- データの品質、一貫性、信頼性を向上
- データ間の関係性の識別、作成、および管理
- データガバナンスとスチュワードシップ (データ運用管理) の向上
- IT業務やデータ提供の効率化
- データの可視性や分析の精度を向上し、優れた洞察や知見を抽出

デジタルトランスフォーメーションを推進するための詳しい方法については、Eメール (info@stibosystems.com) でお気軽にご相談ください。公式ウェブサイト (stibosystems.com) でも詳細をご覧ください。

About Stibo Systems

Stibo Systems, the master data management company, is the trusted source of MDM solutions based on a unique business-first, people-centric approach. Our solutions are the driving force behind forward-thinking companies around the world that have unlocked the strategic value of their master data; empowering them to improve the customer experience, drive innovation and growth, and create an essential foundation for digital transformation. Stibo Systems is a privately held subsidiary of the Stibo A/S group, founded in 1794, and is headquartered in Aarhus, Denmark. For more information, visit stibosystems.com.